



Poco ZEFIRO

カトリック桂教会 広報紙

Vol. 8
2017年クリスマス号

編集・発行
カトリック
桂教会広報部

「イエスの誕生日

おめでとうございます」

京丹ブロック担当司祭 アントニオ・カマチョ

はじめまして。私はグアダルペ宣教会の
アントニオ・カマチョと申します。メキシ
コ人です。一九九一年に日本に来ました。
日本語を二年間勉強して、その後、京都教
区の山科教会に十ヶ月くらい住みました。
その頃、希望の家に手伝いに行きました。

一九九四年に東京カトリック神学院で神
学を勉強して、一九九七年に仙台教区の元
寺小路カテドラルにて助祭叙階を受けまし
た。一九九八年メキシコに帰り、一九九
年にメキシコで司祭叙階を受けてから、メ
キシコでしばらく色々な仕事をしました。

グアダルペ宣教会本部で宣教師アニメー
ションの部長、コミュニケーションとウェ
ブマスターのアシスタント（三年）、宣教
師の召命センターの責任者（二年）、宣教
師振興局長ソーシャルメディアの部長（六
年）を経験しました。その後、二〇〇九年
に日本に派遣されたのですが、司教団の元
でコミュニケーションの事務局長の役務の
為に呼び返されました。日本に帰りたかつ
たのですがまだでした。

七年間、メキシコの司教団の元で働いま
した。メキシコは九十三教区がありますの
で各教区のコミュニケーションオフィスに
訪ねて参りました、研修会とか勉強会とか

のメディア会議を行いました。その
間に一番の思い出に残った事は、教
皇ベネディクト十六世によつてメキ
シコへの訪問がなされた時にメディ
アコーディネーターをさせて頂いた
ことです。

去年の七月にやっと派遣されて日
本に戻つて来ました。半年の間、日本語を
学ぶために学校へ行きました。今年の復活
祭後に京都教区京丹ブロックに大塚司教様
から任命されて嬉しく思いました。これか
ら京丹ブロックの信者の皆様と共に歩ん
でいきたいと思っています。

『皆様の苦しみは私の苦しみ、皆様の喜
びは私の喜び』

私たちは毎年イエス様のご誕生をお祝い
します。色々な形で表します。教会ではミ
サの時に特別な礼拝をしますが、皆さん
は、家に帰つて来たかどうかという風にイエス
様にお祝いをしていますか？多分、色々な
物をお部屋に飾ったり、お土産（プレゼン
ト）を配ったり、食事をしながら音楽を聞
く事ではないでしょうか。それと、もう一

どこだろう？ 何だろう？

教会のどこかで撮影した
スナップ写真です。これ
が何だかわかりますか？

正解は広報部員まで





つは、やっぱり家の外に何かクリスマスの飾り付けをしたほうが良いと思われまう。ところで、この神聖な夜を、真の光キリストによって照らしてくださいました。闇に輝く光を見たわたしたちが、その喜びを永遠に賛美することができますように。と、二十五日のクリスマスミサの集会祈願で祈ります。

それから、その頂いた喜びを多くの人と分かち合いたいと思います。特に家族の中で、それから隣りの人、貧しい人、苦しむ人、憐れみ深い人たちと分かち合うのです。私は、皆様にとって明るい宣教師に成って祈ります。これからも愛を込めて、喜びを持って、共に暮らす共同体を大切にするを！どうぞ宜しくお願いします。

★ カマチヨ神父様にインタビュ ★

Q: 今までで一番うれしかったプレゼントは何ですか？

司祭叙階を受けたことです。

Q: 一番欲しいプレゼントは？

皆さんが良い信者になることです。

(この時ちよつと苦笑い)

Q: メキシコのクリスマスを紹介してください。

(少し、分りにくかったので要約させてもらいました。)

国民の八割がカトリック教徒であるメキシコでは、クリスマスは一年で最も大きな行事です。マリアとヨセフが宿を探したとされる十六日から二十三日まで、ボサダと呼ばれる伝統行事が行われます。子供たちがマリアとヨセフの装束で、近所の家の前に立って歌を唄ってくれるそうです。「泊めてください」「無理です」のやりとりをしながら町を回り、最終的には「では、泊まって下さい」と、中に入れてもらいます。そこでみんなと一緒にロザリオの祈りをして、メキシコ料理などいただきます。

メインイベントは、ピニャータ(土鍋という意味)。中にお菓子がいっぱい入っている陶器製の器を、棒で叩いて割り、そこから落ちてきたお菓子を拾っていただく楽しいイベントです。カマチヨ神父様によると、ピニャータは罪を表し、信仰(「棒」)の力でそれを退け、最後にはお恵み(「お菓子」)をいただくことを表現しているそうです。